

# 医史学関係文献目録 (項目五十音順)

## 医学切手・書画

- 腎移植 古川 明 医学のあゆみ 一六(一)二一～二二  
一九八一
- ペーチエット病 古川 明 医学のあゆみ 一六(六)五  
七三～七五四 一九八一
- ブルハーヴェ Boerhaave 古川 明 医学のあゆみ 一六  
(八)中付 一九八一
- リーボン J. von Liebig 古川 明 医学のあゆみ 一六  
(一〇)八二～八二二 一九八一
- ハーラー A. von Haller 古川 明 医学のあゆみ 一六  
(一一)中付 一九八一
- ビネル Phillip Pinel 古川 明 医学のあゆみ 一七(三)  
中付 一九八一
- クローク August Krogh 古川 明 医学のあゆみ 一七  
(五)二四四～二四五 一九八一
- ロキタンスキー K. Rokitsansky 古川 明 医学のあゆみ 一  
一七(七)中付 一九八一
- Helen Keller 生誕一〇〇年 古川 明 医学のあゆみ 一七  
(一〇)八五六～八五七 一九八一
- ファン・スウィーテン Van Swieten 古川 明 医学のあゆみ  
一七(一二)中付 一九八一
- 角膜移植と眼球銀行創設者 Flarov 古川 明 医学のあゆみ  
一八(一)一六、(五)二六七～二六八 一九八一
- ビシヤ Marie François Xavier Bichat 古川 明 医学のあ  
ゆみ 一八(三)
- ビルロート Theodor Billroth 古川 明 医学のあゆみ 一  
八(一二)中付 一九(三)中付 一九八一
- 国際障害者年 古川 明 医学のあゆみ 一九(一)一四～  
一五 一九八一
- ウイルヒョウ Rudolf Virchow 古川 明 医学のあゆみ 一  
九(八)中付 (一二・一三)中付 一九八一
- 魯迅生誕一〇〇年 古川 明 医学のあゆみ 一九(一〇)  
七八二～七八三 一九八一
- 朝倉の国工曾我紹仙筆「山水図」の賛文(朝倉の医・好月老人は  
三崎氏先祖か) 岩治勇一 福井県医師会だより (二二八)  
一一 一九八一
- 曾我墨溪(推定)筆、一休着賛の「神農像」 岩治勇一 福井  
県医師会だより (二三〇)二〇 一九八一
- 医学教育
- 長与専斎と長崎 伴 忠康 いずみ 二八(四)一一一  
学長選挙の始まり 伴 忠康 いずみ 二八(五)一一一九  
九八一
- 医進課程の創設 伴 忠康 いずみ 二八(五)一一一九  
八一
- 新潟医科大学ドイツ人医学教師グラフ (Graff) 一八八七～一九六

六) 蒲原 宏 新潟県医師会報 (三七二) 一九八一

ドイツ医学採用前後の別な事情 (二) — 主に Public Record

Office, London の資料よりの引例 — 原口忠男 日本医史

学雑誌 二七 (三) 二六四〜二六六 一九八一

帝国大学医科大學別課医学科第十九回、二十回卒業生名簿 小関

恒雄 日本医史学雑誌 二七 (四) 三五九〜三六一 一九八一

鳥取医学校ごぼれ話 岸本頼子 日本医事新報 (二九七四)

六八 一九八一

医学用語

Hospital の語源によせて 科学史と医学史の間から 大島智夫

信州医誌 二九 (四) 三七五〜三七六 一九八一

医語の語源について 立川 清 日本医事新報 (二九七五) 一

三九 一九八一

医学用語のルーツを探る

神話に由来する医学用語 酒井シヅ Hi-Medic 二 (五)

二二〜二三 一九八一

人名・地名由来の医学用語 酒井シヅ Hi-Medic 二

(六) 一八〜一九 一九八一

人名由来の医学用語 酒井シヅ Hi-Medic 二 (七) 一八

〜一九 一九八一

頭にかかわる医学用語 酒井シヅ Hi-Medic 二 (七) 二二

〜二三 一九八一

アラビア語由来の医学用語 酒井シヅ Hi-Medic 二

(八) 一八〜一九 一九八一

目に関する言葉 酒井シヅ Hi-Medic 二 (一) 二二〜

二四 (二) 二二〜二三 一九八一

医学史一般

一八世紀日本の医学における科学革命—蘭方の発展のための思想的な前提 ウィリアム・D・ジョンストン 日本医史学雑誌

二七 (一) 六一〜二〇〇 (二) 一三二〜一五六 一九八一

Man as Machine and Man as Microcosm: A Comparison of

Western and Traditional Japanese Approaches to Patient

Care Margaret M. Lock 日本医史学雑誌 二七 (四) 四

二二〜三九二 一九八一

古京出土遺物の医史学的研究 (その一) — 木簡について 樋口

誠太郎 日本医史学雑誌 二七 (四) 二九三〜三〇三 一九八

一

日本の医療文化史

紅毛流外科の人びと 宗田 一 Neue Informa (五七) 二

七〜三三 一九八一

日本研究のテン・ライネとケンベル 宗田 一 Neue

Informa (五八) 二七〜三三 一九八一

通詞系医学 宗田 一 Neue Informa (五九) 二七〜三三

(六〇) 二七〜三三 一九八一

古方派の台頭 宗田 一 Neue Informa (六一) 二七〜三

三 一九八一

古方派の進展 宗田 一 Neue Informa (六二) 二八〜三

三 一九八一

解剖事始 宗田 一 Neue Informa (六三) 二八～三三

一九八一

東洋以後の解剖 宗田 一 Neue Informa (六四) 二八～

三三 一九八一

古方派と蘭学と 宗田 一 Neue Informa (六五) 二八～

三三 一九八一

江戸の蘭学(運動)事始 宗田 一 Neue Informa (六

六) 二八～三三 一九八一

杉田玄白をめぐる人びと 宗田 一 Neue Informa (六

七) 二八～三三 一九八一

シュンペリーの日本人弟子たち 宗田 一 Neue Informa

(六八) 二七～三三 一九八一

日本の医療史 酒井シヅ 薬事新報(一一〇二)七五～八二、

(一一一九)七三～八二、(一一三二)七二八～七三三、

(一一四五)七七～八二 一九八一

医療機器

江戸時代種痘鏡 蒲原 宏 新潟県医師会報(三七四) 一九

八一

医療制度史

わが国の母子保健の変遷 松本清一 小兒科 二二(三)二六

一～二六八 一九八一

工場法の審議過程における条文修正の状況 乾 修然 日本医

史学雑誌 二七(三)二五五～二五六 一九八一

極東国際軍事裁判速記録のなかにある「厚生省」の記事について

清水勝嘉 日本医史学雑誌 二七(三)二五六～二五七 一九八一

岡谷蚕糸博物館所蔵資料にみる製糸工女の医療費負担について

(第三報) 入院・死亡および帰宅の場合) 清水勝嘉 日本

医史学雑誌 二七(三)二五八～二五九 一九八一

岡谷蚕糸博物館所蔵資料にみる製糸工女の医療費負担について

(第四報) 一カ年間の薬価支払先について) 清水勝嘉 日

本医史学雑誌 二七(三)二六〇～二六二 一九八一

日本医療史 日戸修一 日本医事新報(二九六八)六八～七〇

(二九六九)六八～六九、(二九七二)七一～七四、(二九七

三)六二～六四、(二九七四)六九～七一、(三〇〇〇)六七

～七一、(三〇〇二)六四～六七、(三〇〇二)七〇～七三、

(三〇〇七)六八～七〇、(三〇〇八)六五～六八 一九八一

明治期の諏訪地方における製糸工女の医療費負担の状況 清水

勝嘉 防衛衛生 二八(三)四五～六三 一九八一

衛生・公衆衛生

労働と健康をめぐるいくつかの資料衛生史事始―扶長生法―

三浦豊彦 科学医学資料研究(九一)四～七 一九八一

屯田兵村におけるわが国初期の農村保健の統計について 清水

勝嘉 日本医史学雑誌 二七(三)二五二～二五四 一九八一

古代インドの公衆衛生 杉田暉道 日本公衆衛生雑誌 二八

(一)五三～五六 一九八一

埼玉県における明治一〇年代の公衆衛生(第一報)町村衛生委員

について 清水勝嘉 防衛医大誌 六(一)四九～五六 一

九八一

解剖学史

日本解剖学史 酒井シヅ 日本医史学雑誌 二七(四)三四四

～三五八 一九八一

学会

学会記 医史学会 堀江健也 日本医事新報(一九九四)四五

～四七 一九八一

看護史

看護の変革・戦後三〇年 湯楨ます、小玉香津子 看護 三三三

(一一)一四～一二一、(一二)八四～九一 一九八一 (三三)

八二～八九 一九八一

クリオへの感謝 歴史にみる看護婦群像

鈴木まさのこと(一八五七～一九四〇) 高橋政子 看護教育

二二(六)三九九～四〇四 一九八一

高野京のこと(一八七九～一九七〇) 高橋政子 看護教育

二二(七)四五一～四五六 一九八一

「幼きイエズス修道会」と看護活動 高橋政子 看護教育

二二(八)五一三～五二〇 一九八一

大関和のこと(補遺) 高橋政子 看護教育 二二(九)五七

五～五八二 一九八一

ベルナルド山の廃屋と忘れられぬ人 高橋政子 看護教育

二二(一〇)六四四～六五〇 一九八一

大正十五年の諏訪地方における製糸工場病室の看護婦名簿につい

て 清水勝嘉 日本医史学雑誌 二七(三)二六二～二六四

一九八一

外科史

輸血の歴史 遠山 博 からの科学(九七)一三五～一三九

(一〇〇)二二八～二三三、臨床医 七(一二)二五〇～二

五一〇 一九八一

Galenos の外科 酒井シヅ 手術 三五(八)九二一 一九八

一

ヘルニア手術 酒井シヅ 手術 三五(一)八 一九八一

下肢切断術 酒井シヅ 手術 三五(一)一二一 一九八一

Thomas Spencer Walls の手術 酒井シヅ 手術 三五(三三)

二八〇 一九八一

焼灼術 酒井シヅ 手術 三五(四)三六三 一九八一

気管切開 酒井シヅ 手術 三五(五)五〇六 一九八一

わが外科学研究五〇年の歩み 消化性潰瘍の成因論に沿った現実

的手術法とその心について 石原恵三 手術 三五(五)五

八九～五九四 一九八一

サレルノの外科学 酒井シヅ 手術 三五(九)九六六 一九

八一

膀胱結石截石術 酒井シヅ 手術 三五(一二)一三四三 一

九八一

明治中期における外科学講義の一例 奥富敬之 日本医史学雜

誌 二七(三)二六七 一九八一

明治時代におけるわが国の造鼻術 星 栄一 日本医史学雑誌

二七(三)二六八～二七〇 一九八一

本邦における草創期の胆のう外科 松木明知 日本医史学雑誌

二七(四) 三三五〜三四三 一九八一

「長崎の外科史」をめぐって 中西啓・大村敏郎 臨床外科

三六(八) 一二五九〜一二六九 一九八一

形成外科史

事始め・日本の形成外科 大森清一 形成外科 二四(一)七

四〜八〇 一九八一

産婦人科史

『トリストラム・シャンディ』補遺(上)―その産科学史的考察

中西 勉 日本医事新報(二九八〇) 六二〜六五 一九八一

北海道における明治期の帝王切開術について 松木明知 日本

医史学雑誌 二七(三) 二五二 一九八一

歯学史

仏典にみえる歯の健康観 杉本茂春 医学史研究(五五) 三四

〜三七 一九八一

江戸時代の歯科医 小説になった「口中医者」 篠田達明・橋

本脩二 デンタルダイヤモンド 六(六) 七三〜七九 一九八

一

戦時下に於て活用す可き歯科界の人的資源(昭十八)について

本間邦則 日本医史学雑誌 二七(三) 二七一〜二七二 一

九八一

日本歯科医学発展の回顧 鈴木 勝 日本歯科医史学会誌

八(二) 一〜六 一九八一

中国で口歯の医療に用いられた塩について 第一報 中国に於け

る産塩の沿革と分布 戸出一郎 日本歯科医史学会誌 八

(二) 七〜二二 一九八一

江西省南昌市東呉高榮より発見した金製小楊枝について―一九八

〇年考古Ⅴ三期二一九頁の江西省南昌高榮墓的発掘による―

周 大成 日本歯科医史学会誌 八(二) 二三〜二四 一九

八一

歯固の変遷について(第一報) 長谷川正康 日本歯科医史学

学会誌 八(二) 二五〜三〇 一九八一

第四回内国勸業博覧会の歯科出品物 第一報 歯科器材について

大橋正敬・後藤尚久・竹井満久・片山幸太郎・菅原明善・白井

潔・芝原健夫 日本歯科医史学会誌 八(二) 三一〜三八

一九八一

明代の歯科専門書「口齒類要」について 周 大成 日本歯科

医史学会誌 八(二) 三九〜四〇 一九八一

中国口腔医学発展簡史 周 大成 日本歯科医史学会誌 八

(三) 一〜一九 一九八一

クルックス管を用いた初期のX線写真の検討 沼田久次 日本

歯科医史学会誌 八(三) 二〇〜二五 一九八一

中国で口歯の医療に用いられた塩について 第二報 本草書に載

る塩について 戸出一郎 日本歯科医史学会誌 八(三)

二六〜三五 一九八一

中国新石器時代人類の口腔に球を含む習俗について 周 大成

日本歯科医史学会誌 八(三) 三六〜三九 一九八一

仏典にみえる健康観と特異な症候群 杉本茂春 日本歯科医史

学会誌 八(三)四〇〜四五 一九八一

第四回内国勸業博覧会の歯科出品物 第二報 歯磨について

大橋正敬・長谷川清・竹井満久・菅原明善・小田邦雄・芝原健夫 日本歯科医史学会誌 八(三)四六〜五一 一九八一

第四回内国勸業博覧会の歯科出品物 第三報 歯ブラシおよび楊

枝について 大橋正敬・仁平真佐秀・片山幸太郎・菅原明善

小田邦雄・芝原健夫 日本歯科医史学会誌 八(三)五二〜

五五 一九八一

歯磨の名称(みがき砂から歯磨に至る)の移り変りについて

本山佐太郎 日本歯科医史学会誌 八(四)五〇〜六一 一九八一

一

木床義歯の研究 仏師と入歯師 杉本茂春 日本歯科医史学会

会誌 八(四)六〜七 一九八一

山本文之衛門使用の木床義歯 中原 泉・新藤恵久・山本貞雄

柏木正男 日本歯科医史学会誌 八(四)七 一九八一

一八〇〇年代の補綴技術の発展 永田和弘 日本歯科医史学会

会誌 八(四)七〜八 一九八一

「備急千金要方」に記載された歯病について 戸出一郎 日本

歯科医史学会誌 八(四)八〜九 一九八一

新聞にみられる医学と歯学の広告 谷津三雄、鈴木 勝 日本

歯科医史学会誌 八(四)九〜一〇 一九八一

高麗郷の由来とその歴史 高麗澄雄 日本歯科医史学会誌

八(四)一〇 一九八一

戦後大学の厚生補導の歩み 多和敏一 日本歯科医史学会誌

八(四)一〇〜一一 一九八一

Meso-America における Tooth Mutation の研究(その二)

—メソアメリカと日本の Tooth mutilation の比較研究—

森山徳長 日本歯科医史学会誌 八(四)一一 一九八一

鎌田玄台に関する補遺 嶋村昭辰・上瀉口武 日本歯科医史学

会誌 八(四)一一〜一二 一九八一

明治の書籍に見られる歯学の検討(第一報) —後藤新平訳普通生

理学について— 岡田治夫 日本歯科医史学会誌 八(四)

一二〜一三 一九八一

歯固の変遷について 長谷川正康 日本歯科医史学会誌 八

(四)一三 一九八一

大正から昭和初期における歯科医業は時代の尖端をいく新しい職

業であったかどうか? 長谷川俊夫 日本歯科医史学会誌

八(四)一三 一九八一

模様入り歯科診療用器械の用いられた時期とその意義について

下総高次 日本歯科医史学会誌 八(四)一三 一九八一

ニッケルめっきを応用したわが国最初の医療器械器具について

大橋正敬 日本歯科医史学会誌 八(四)一三〜一四 一九

八一

古代ローマ帝国の歯科医学(その二) —Celsus 著 De Medicina

の歯科医学的記載の翻訳— 森山徳長 日本歯科医史学会

誌 八(四)一五〜二三 一九八一

古代ローマ帝国の歯科医学(その三) —De Medicina の歯科医

学記載の翻訳補遺— 森山徳長 日本歯科医史学会誌 八

(四) 二四〇三〇 一九八一

一九世紀中葉に流行したリゾドントリピーの書誌学的研究(その

一)ーリゾドントリピーの起源と定義ー 森山徳長 日本歯

科医学学会誌 八(四)三二一三七 一九八一

江陵鳳凰山一六八号墓の西漢古屍の口腔疾患及びその他 周

大成 日本歯科医学学会誌 八(四)三八〇四一 一九八一

東南アジア人の歯牙習俗考 杉山美津子 日本歯科医学学会

誌 八(四)四二二四三 一九八一

### 獣医学史

馬医巻物(文禄四年)について 村井秀夫・松尾信一・白井恒

三郎 日本獣医学雑誌(一五)一〇一五 一九八一

元禄期における犬医者考 間庭秀信 日本獣医学雑誌(一五)

一六〇二三 一九八一

時重初熊博士著『牛疫』についてー明治時代の牛疫研究要約ー

岸 浩 日本獣医学雑誌(一五)二四〇三二 一九八一

江戸時代後期の馬術叢説とその類書 松尾信一 日本獣医学

雑誌(一五)三二二〇三三 一九八一

下総御料牧場ができるまで(二) 谷垣康弘 日本獣医学雜

誌(一五)三四〇四四 一九八一

軽騎加刺別印姿掣(前篇) 中村洋吉 日本獣医学雑誌(一

五)四五〇四九 一九八一

馬伝染性貧血の検診小史 中村良一 日本獣医学雑誌(一五)

五〇〇五一 一九八一

最後の農林省主催伝賃専任技術員講習会 稲吉大資 日本獣医

史学雑誌(一五)五一〇五五 一九八一

獣医学界の先駆者「與倉東隆」先生 上條 峻 日本獣医学雜

誌(一五)五五〇六三 一九八一

日本の家畜解剖図 松尾信一 日本獣医学雑誌(一五)六四

〇六六 一九八一

世界獣医学学会 第一六回国際シンポジウムに参加して

脩 日本獣医学雑誌(一五)六七〇七五 一九八一

### 疾病史

失語症と脳病変 安芸基雄 音声言語医学 二二(四)三〇四

〇三三八 一九八一

わが国における先天性内反足の歴史 島津晃・岡島幹雄・松田

英雄 整外 Med(一七)一〇一〇 一九八一

弘前藩斜里越冬兵と壊血病 松木明知 日本医学雑誌 二七

(一)五六〇六三 一九八一

戦前の精神科病院における脚気の発生状況ー巢鴨病院へ松沢病院

の統計を中心にー 岡田靖雄 日本医学雑誌 二七(二)

九五〇一一 一九八一

病草子と平安時代の諸文献に見える主な疾患 MACE・美枝子

日本医学雑誌 二七(三)二一〇〇二二 一九八一

食道瘻治療の今昔 中山恒明 日気管食道会報 三三(二)七

四〇八〇 一九八一

三叉神経痛の歴史 菊地博達・盛生倫夫 ペインクリニック

二(一)七三〇七七 一九八一

種痘

川崎宿種痘館 深瀬泰旦 川崎市小児科医会(五) 三九〇四五

一九八一

中川五郎治の種痘に関する小資料—新潟で発見された北方志種痘

資料紹介—蒲原 宏・藤井宣正 日本医史学雑誌 二七(三)

二二八〇二二九 一九八一

書誌学

鷗外、その視座の一面—『渋江抽斎』その百二、百三を手がかり

に—田崎哲郎 愛知大学文学論叢(六六) 一〇二—一九八一

ガレノス著『最良の医師は哲学者でもあることについて』 石

渡隆司・菅野晶子訳 岩手医科大学教養部研究年報(二六) 一

三五〇一四〇 一九八一

『N.G. マンロー博士伝』抄 第六章 考古学から人類学へ 桑

原千代子 大塚薬報(三四五) 六五〇六八

エンゲルベルト・ケンベルのドイツ語版「日本誌」(Geschichte

und Beschreibung von Japan)と「日本植物図譜」(Icons

selectae Plantarum, quas in Japonia collegit et delineavit)

複製版 岩生成一 科学医学資料研究(八一) 一〇〇—一三

一九八一

ハラー「人体生理学原論」を中心として「生理学初歩」 「人体解

剖図」によるグリムプス 川喜田愛郎・吉田弘樹 科学医学

資料研究(八二) 一〇六 一九八一

ウイリアム・スメリー著「解剖図表」についての検討 (1)序文お

よび第一図表 蔵方宏昌 科学医学資料研究(八三) 九〇—

三一 一九八一

岩崎灌園『本草図譜』に関する思い出 木村陽二郎 科学医学

資料研究(八四) 一〇八 一九八一

ウイリアム・スメリー著「解剖図表」についての検討 (2)第二図

表および第三図表 蔵方宏昌 科学医学資料研究(八五) 三

〇七 一九八一

鷹見泉石著「新訳和蘭全図」(嘉永二年版)の複製完成に寄せて

川島恂二 科学医学資料研究(八七) 一〇七 一九八一

ヘルムホルツの「生理光学概要」について(一) 山口宙平

科学医学資料研究(八七) 八〇—一二 一九八一

マシウ・ベイリー「人体諸器官の病的解剖学」とその「付図表」

について—近代病理解剖学の源流— 川喜田愛郎・吉田弘樹

科学医学資料研究(八八) 一〇七 一九八一

ウイリアム・スメリー著「解剖図表」についての検討 (3)第四図

表および第五図表 蔵方宏昌 科学医学資料研究(八九) 九

〇二—一〇 一九八一

シーボルト事件余録—『天文曆学諸家書簡集』を編して— 上

原久 科学医学資料研究(九〇) 七二—一〇 一九八一

香月牛山著「遊豊司命録」読み下し拙文 宮崎綾子 漢方の臨

床 二八(三) 四二—四六、(四) 四七—四九、(六) 三二—

三六、(七) 四一—四三、(八) 二八—三二、(九) 三四—三

七 一九八一

医・薬学の履歴書

『薬局方出版』ラッシュの時代だった一六世紀 鶴野 誠

新医療 八(三) 一一〇～一一一 一九八一

非常に誤りの多かった(ロンドン薬局方)初版 鶴野 誠

新医療 八(六) 八二～八三 一九八一

『玉とり日記考』補遺 佐藤 蕃 東京医科大学内科同窓会誌

(六) 三六～三七 一九八一

『陰陽十一脈灸経』の研究 赤堀 昭 東方学報(五三) 二九

九～三三九 一九八一

大野九十九編『解体学語箋』 蒲原 宏 新潟県医師会報(三

七六) 一九八一

長谷川松山『脚気方考』(文化一三年版) 蒲原 宏 新潟県医

師会報(三七七) 一九八一

新潟版 原沢对照羅独及漢病薬両名集 蒲原 宏 新潟県医師

会報(三八〇) 一九八一

二階堂保則著虎影漫録 蒲原 宏 新潟県医師会報(三八二)

一九八一

香月牛山編『老人養草』について 山根信子 日本医史学雑誌

二七(三) 二二五～二二六 一九八一

医心方の伝写について 杉立義一 日本医史学雑誌 二七(三)

二二三～二二五 一九八一

『鑑氏内科学』神経系諸病について 安井 広 日本医史学雑誌

二七(三) 二四二～二四三 一九八一

『紅医外科宗伝』と他種の紅毛外科書との比較 酒井シヅ 日

本医史学雑誌 二七(三) 二二八 一九八一

いわゆる「ターヘル・アナトミア」と解体新書の比較(その二)

酒井 恒 日本医史学雑誌 二七(三) 二二〇～二二二 一九

八一

一冊の本『眼科新書』の原本を求めて 山賀 勇 日本医事新

報(二九七) 五九～六二 一九八一

『トリストラム・シャンディ』補遺(下) 中西 勉 日本医

事新報(二九八一) 六五～六七 一九八一

ターヘル・アナトミア彷徨 竹下外来男 福井県医師会だより

(二二二) 三〇～三一 一九八一

文庫の窓から

真流真教之巻 中泉行信・中泉行史・斉藤仁男 臨床眼科

三五(一) 一一八～一一九 一九八一

医的方 中泉行信・中泉行史・斉藤仁男 臨床眼科 三五

(二) 三三〇～三三一 一九八一

眼目精要、眼科医療手引草と医療羅合 中泉行信・中泉行史

斉藤仁男 臨床眼科 三五(三) 五〇〇～五〇一、(四) 六八

八～六八九 一九八一

白山院上当延流眼科書 中泉行信・中泉行史・斉藤仁男 臨

床眼科 三五(五) 八七二～八七三 一九八一

格致餘論(一) 中泉行信・中泉行史・斉藤仁男 臨床眼科

三五(六) 一〇五二～一〇五三 一九八一

本草綱目(一) 中泉行信・中泉行史・斉藤仁男 臨床眼科

三五(八) 一三六四～一三六五 一九八一

眼科諸流波の秘伝書 中泉行信・中泉行史・斉藤仁男 臨

床眼科 三五(一一)一七五〇～一七五一 一九八一  
白隠著「夜船閑話」

一、白隠・長澤岩次郎(二六八五～一七六八) 森 優 臨床  
と研究 五八(二)赤ベージ一～二 一九八一

二、内観の秘法 森 優 臨床と研究 五八(二)赤ベージ  
三～四 一九八一

三、内観法 森 優 臨床と研究 五八(三)赤ベージ五  
六一九八一

四、白隠、白幽を訪う 森 優 臨床と研究 五八(四)赤  
ベージ七～八 一九八一

五、白幽がとく生理学 森 優 臨床と研究 五八(五)赤  
ベージ九～一〇 一九八一

六、石壹先生が説く長生文視の法 森 優 臨床と研究 五  
八(六)赤ベージ一～一二 一九八一

### 書評

神谷昭典著・日本近代医学のあけぼの―維新政権と医学教育―

宗田 一 医学史研究(五五)四〇～四一 一九八一

三浦三郎著・(江戸時代・川柳にみる)くすりの民俗学 宗田

一 医学史研究(五五)四一 一九八一

藤野恒三郎監訳・微生物学の一里塚 宗田 一 医学史研究

(五五)四一 一九八一

『人類医学年表―古今東西対照』阿知波・三木著 長門谷洋治

医学史研究(五五)四一～四二 一九八一

岡田靖雄―私説―松沢病院史(二八七九～一九八〇) 松田方一

医学史研究(五五)四二～四四 一九八一  
日本柔道整復師会編・日本整骨全集(上・下)

医学史研究(五五)四四～四五 一九八一

### 小児科史

鹿児島の小児科医史 森 重孝 鹿児島市医報 二〇(二)三

一～三三 一九八一

鹿児島の小児科医史 森 重孝 鹿児島市医報 二〇(四)三

〇～三六 一九八一

鹿児島の小児科医史 森 重孝 鹿児島市医報 二〇(一〇)

四〇～四一 一九八一

### 整形外科史

整形外科の歴史

諸国における整形外科の発展・イギリス 加藤 正訳 整形

外科 三二(一)一〇三～一〇五、(二)二一三～二一六、

(三)三二九～三三三、(四)四四六～四四九、(五)五五

六～五六一 一九八一

フランス 加藤 正訳 整形外科 三二(六)六七一～六七

四、(七)八八九～八九二、(八)一〇〇一～一〇〇五、

(九)一二三～一二七 一九八一

オランダ 加藤 正訳 整形外科 三二(一〇)一二三五～

一二三八 一九八一

スイス 加藤 正訳 整形外科 三二(一一)一三四五～一

三四七 一九八一

ドイツ 加藤正訳 整形外科 三二(一二)一九〇一～一九

○四 一九八一

目でみる整形外科の歴史

ブルーゲルの絵 酒井シヅ 整形・災害外科 二四(11) 1

九九 一九八一

Nicola Andryの「整形外科書」(一七四一)より 酒井シヅ

整形・災害外科 二四(3) 四一五 一九八一

Pottの外科 酒井シヅ 整形・災害外科 二四(4) 五一

四 一九八一

骨継療治重宝記から 酒井シヅ 整形・災害外科 二四(5)

六三一、(六) 七三八、(七) 八七〇、(九) 一一九五 一

九八一

### 精神医学史

戦前の精神科病院における死亡率 岡田靖雄 医学史研究(五)

五) 一七七 一九八一

医学思想史からみた精神医学

I、現代生物学・医学の機械論的性格 川喜田愛郎 社会学

精神医学 三(4) 二六五~二七一 一九八一

II、「身体」医学と精神医学 川喜田愛郎 社会精神医学

四(1) 五七~六六、(2) 一五七~一六五 一九八一

Theory and Practice in British Psychiatry from J.C. Prichard

(一七八六~一八四八) to Henry Maudsley (一八三五~一九

一八) W.F. Bynum 日本医史学雑誌 二七(1) 九四~

七三 一九八一

“Psychiatry of Paracelsus Hiroshi OHASHI 日本医史学雑誌

誌 二七(1) 一八七~一八八 一九八一

Concepts of Psychiatric Interest in Chinese Traditional Medi-

cine Hans Agraen 日本医史学雑誌 二七(1) 二〇四~

一八八 一九八一

中国古代における精神疾病観—中国古代における非「理性」の間

題—石田秀實 日本中国学会報(三三) 二九~四二 一九八一

民俗学と精神医学—民俗精神医学序説— 昼田源四郎 文化と精

神医学(二五) 四九~六二 一九八一

### 生物学史

生命力の起源を求めて(II) 河本英夫 生物学史研究(三八)

一~一〇 一九八一

アメリカ発生物学成立の一側面—「細胞系統」研究を中心に—

溝口 元 生物学史研究(三八) 一一~二一 一九八一

適応機械の制御系について 水谷 隆 生物学史研究(三八)

二二~二九 一九八一

アリストテレスにおける生物学の方法としての靈魂の概念 伊

達英一 生物学史研究(三九) 一~九 一九八一

生物学から歴史学へのインパクトシステム理論の場合 丹野

大 生物学史研究(三九) 一七~二四 一九八一

歴史叙述(historiography)と歴史主義(historism, historicism)

との関わりについて 田辺振太郎 生物学史研究(三九) 二

五~二九 一九八一

俱禮原著、井上勤訳『優勝劣敗』猿乃裁判 日本の進化論史の一

側面 鈴木善次 生物学史研究(三九) 三〇~三三 一九八

一

西洋医学史

西洋医学の歴史 パリ臨床学派の病院医学 矢部一郎 医歯薬

進学 二(五) 六四〇六七 一九八一

中世ヨーロッパの医戒・養生訓—中世医学のメッカ・サレルノの養生訓から— 大槻真一郎 日本医史学雑誌 二七(三) 二七

二〇二七四 一九八一

モリエール時代の医師と患者 佐藤登貴子 日本医事新報(二

九八二) 六一〇六五 一九八一

地方史

津山洋学の五峰像 木村岩治 医学選粹(二六) 三 一九八一

種子島の医史 河内一郎 医学選粹(二六) 一八〇二三 一九八一

八一

幕末から明治中期までに新潟県を訪ねた外国人医師とその足跡

蒲原 宏 にいがた(一七) 一〇七 一九八一

北越医学会報 第一号表紙と北越医学会印 蒲原 宏 新潟県医師会報(三七二) 一九八一

師会報(三七二) 一九八一

医界風土記

山口県 岩国市における戴曼公独立 庄司 忠 日医ニュース(四六四) 一九八一

熊本県 巨星、北里柴三郎先生 六反田藤吉 日医ニュース(四六五)(四六六) 一九八一

山梨県 温故知新—中巨摩郡医師会の歩み— 保坂 傳

日医ニュース(四六七) 一九八一

高知県 明治初期の土佐藩と英国医学 石川 侃 日医ニュース(四六九) 一九八一

奈良県 天誅組の医師乾十郎 吉田 宏 日医ニュース(四七〇) 一九八一

鳥取県 藩医吉岡家 森 納 日医ニュース(四七一) 一九八一

鹿児島県 鹿児島島の旧薬園 森 重孝 日医ニュース(四七二) 一九八一

埼玉県 埼玉県医学学校始末記 仲田一信 日医ニュース(四七三)(四七四) 一九八一

長崎県 防疫対策 中西 啓 日医ニュース(四七五) 一九八一

長崎県 薬局方と対外赤十字活動 中西 啓 日医ニュース(四七七) 一九八一

岐阜県 小森玄良生誕二百年祭 青木一郎 日医ニュース(四七七) 一九八一

島根県 田代嚮平 米田正治 日医ニュース(四七八) 一九八一

鹿児島県 成辰の役に従軍した薩摩の医師 森 重孝 日医ニュース(四七九) 一九八一

鳥取県 種痘医、原田帯霞、謙堂兄弟 森 納 日医ニュース(四八〇) 一九八一

佐賀県 佐賀洋学の系譜 鍵山 栄 日医ニュース(四八一) 一九八一

佐賀県 佐賀洋学の系譜 鍵山 栄 日医ニュース(四八一) 一九八一

福島県 野兔病と大原八郎 佐藤 信 日医ニュース (四

八二) 一九八一

千葉県 関寛斎の一生 伊藤賢章 日医ニュース(四八三)

一九八一

岐阜県 江馬細香の詩碑できる—前野良沢伝の作者— 青木

一郎 日医ニュース(四八四) 一九八一

和歌山県 画人日高昌克先生 村上 敬 日医ニュース

(四八五) 一九八一

大阪府 大阪の除痘館 緒方正美 日医ニュース(四八六)

一九八一

岩手県 南部藩の洋学館「日新堂」 金野宏太郎 日医ニ

ュース(四八七) 一九八一

医学歴史散歩

新潟県 蒲原 宏 臨床科学 一七(一) 一一七~一二三

一九八一

福島県 鶴見膠一 臨床科学 一七(一) 一一二~一一六

一九八一

宮城県 山形敏一 臨床科学 一七(二) 二二一~二二五

一九八一

栃木県 足利地方における種痘の普及—幕末・維新期の先覚者

菊地 卓 臨床科学 一七(二) 二二六~二二九 一九八一

茨城県 矢数道明 臨床科学 一七(三) 三三八~三五三

一九八一

群馬県 関根正雄 臨床科学 一七(三) 三五四~三五七

一九八一

埼玉県 帝王切開の事績 西田芳治 臨床科学 一七(四)

四五二~四五五 一九八一

千葉県 千葉保次 臨床科学 一七(四) 四五六~四六二

一九八一

東京都 蔵方宏昌 臨床科学 一七(五) 五六九~五七三

一九八一

神奈川県 大滝紀雄 臨床科学 一七(五) 五七四~五七七

一九八一

山梨県 神田昌道 臨床科学 一七(六) 六八八~六九三

一九八一

静岡県 土屋重朗 臨床科学 一七(六) 六九四~六九八

一九八一

長野県 信越線に沿って 坂本和夫 臨床科学 一七(七)

八二六~八三一 一九八一

岐阜県 青木一郎 臨床科学 一七(七) 八三二~八三七

一九八一

富山県 館 秀夫 臨床科学 一七(八) 九四一~九四六

一九八一

愛知県 安井 広 臨床科学 一七(八) 九四七~九五二

一九八一

石川県 津田進三 臨床科学 一七(一〇) 一二四〇~一二

四四 一九八一

福井県 北陸の小京都 岩治勇一 臨床科学 一七(一〇)

一四四五～一二五〇 一九八一

三重県 茅原 弘 臨床科学 一七(一一)一三六七～一三

七一 一九八一

管見 滋賀県の医学史 中神良太 臨床科学 一七(一一)

一三七二～一三七五 一九八一

和歌山県 長門谷洋治 臨床科学 一七(一二)一四九三～

一五〇一 一九八一

治療史

佐藤見瑞(延敬) 越後方面御陣中経験治療録の紹介 蒲原 宏

阿賀路(二二)一一～二〇 一九八一

日本における皮下注射の歴史―その一 酒井シヅ 科学医学

資料研究(八八)八～一一 一九八一

聴診器の父ラエネック生誕二〇〇年

ラエネックとの三つの出会い IABENNEC(一七八一)～一八二

六)―その生涯の軌跡 大村敏郎 医学界新聞(一四六五)

二～三 一九八一

聴診器と肝硬変の Laennec についで随想 上田英雄 医

学界新聞(一四六六)二 一九八一

現代における聴診法の意義 吉 利和 医学界新聞(一四六

七)七 一九八一

ラエネックと臨床医学 北本 治 医学界新聞(一四六八)

三 一九八一

ラエネックを読んだ頃 柴田 進 医学界新聞(一四六九)

一九八一

植林鎮山肖像画 中野 操 医学選粹(二五)二 一九八一

吉岡弥生の書 大塚敬節 医学選粹(二五)三～四 一九八一

わが国李朱医学の開祖 田代三喜小伝 矢数道明 医学選粹

(二五)一一～一六 一九八一

英医ウィリスと近代日本医学 佐藤八郎 医学選粹(二五)一

七～二三 一九八一

新井白石像 坪井信道旧蔵 青木一郎 医学選粹(二六)二

一九八一

シーボルト先生の胸像 越中哲也 医学選粹(二六)三～四

一九八一

植嶮山肖像 中野 操 医学選粹(二七)二 一九八一

華岡青洲肖像 上山英明 医学選粹(二七)二～三 一九八一

箕作阮甫の記念像 木村岩治 医学選粹(二七)三～四 一九

八一

緒方洪庵と適塾 藤野恒三郎 医学選粹(二七)一六～二七

一九八一

小石元俊肖像 小石秀夫 医学選粹(二八)二 一九八一

石井宗謙先生顕彰碑 築澤 慧 医学選粹(二八)三～四 一

九八一

近世初期の名医伝 曲直瀬道三の人物と業績 宮本義己 医学

選粹(二八)一一～一九 一九八一

徳島時代の関寛斎 福島義一 医学選粹(二八)二〇～二五

一九八一

Bilhoh の胃切除一〇〇年(一) 武智秀夫 医学のあゆみ

一一九(一一) 八八〇～八八六 一九八一

西洋医学の歴史

シードナムの医学 矢部一郎 医歯薬進学(二)七四～七七

一九八一

ブルハーフェの医学 矢部一郎 医歯薬進学(二)七二～

七五 一九八一

ハラ一の生理学 矢部一郎 医歯薬進学(三)七八～八一

一九八一

ジェンナーの牛痘接種法 矢部一郎 医歯薬進学(二)(四)

六八～七一 一九八一

ベルとマジャンディの生理学 矢部一郎 医歯薬進学(二)

(六)四八～五一 一九八一

ミュラーとその弟子たち 矢部一郎 医歯薬進学(二)(七)

四六～四九 一九八一

ウィルヒョウと細胞病理学 矢部一郎 医歯薬進学(二)(八)

五〇～五三 一九八一

クロード・ベルナルの生理学 矢部一郎 医歯薬進学(二)

(九)五〇～五三 一九八一

コッホと病原細菌学 矢部一郎 医歯薬進学(二)(一〇)

五六～五九 一九八一

パストゥールとワクチン 矢部一郎 医歯薬進学(二)(一一)

六二～六五 一九八一

日本眼科学の先覚 井上達也先生伝 福島義一 エクセルファ

ミリー銀海(八六～九〇) 一九八一

N.G.マンロー博士伝抄 エジンバラから横浜へ 桑原千代子

大塚葉報(三四一) 六五～六八 一九八一

勝海舟関係資料を整理する 紹介を兼ねた中間報告 榑野義明

科学医学資料研究(八五) 八～一五、(八六) 六～一五 一九八一

大塚敬節先生のご逝去に対する海外よりの弔辞 編集部 漢方の臨床 二八(二) 四一～四四 一九八一

浅井国幹先生の墓前に捧ぐ 矢数道明 漢方の臨床 二八(八) 四五～四六 一九八一

松本に於ける浅田宗伯とその後 平林達郎・平林光子 漢方の臨床 二八(一一) 三四～三七 一九八一

大塚敬節先生一周忌法要追悼会 矢数道明 漢方の臨床 二八(一一) 四八 一九八一

牛込時代の父 大塚恭男 活 二二(一一) 一九八一

大塚敬節先生の思い出 山田光胤 活 二二(一一) 二一九 一九八一

フレデリック・ルイシヤ(Frederick Ruyssch)と著書 "Thesaurus Anatomicus"(解剖学宝函)にこつて 酒井シヅ 科学医学資料研究(八一) 一～九 一九八一

ビドロの解剖書について 小川鼎三・吉田弘樹 科学医学資料研究(八三) 一～五

アウエンブルッガーの打診法発明とコルビサールの伝説本 古川明 科学医学資料研究(八三) 六～八 一九八一

ビルロートの業績―その著述と胃切除術を中心として― 古川明

科学医学資料研究(八四) 九〇一三 一九八一

ラエンネクと間接聴診法 古川 明 科学医学資料研究(八六〇)

一〇五 一九八一

クロード・ベルナール―著作と伝―「実験医学序説」を中心とし

て― 古川 明 科学医学資料研究(八九) 二〇〇八 一九八一

その家にかたりつがれたもの―吳秀三先生の鍵体験― 岡田靖雄

科学医学資料研究(九〇) 四〇七 一九八一

一茶における病いの位置 立川昭二 北里大学教養部紀要(一

五) 二〇八〇 一九八一

日本眼科学の先覚 井上達也先生伝 福島義一 銀海(八八)

二二〇二五、(八九) 二二〇二四 一九八一

医学の先駆者

山脇東洋 酒井シヅ 螢雪メデイカル 三(一) 三八〇四一

一九八一

―聴診器の発明で診断をより正確に― ルネ・テオフィール・

H・ラエンネク 酒井シヅ 螢雪メデイカル 三(二)

三〇〇三三

フランソワ・マジャンディ 酒井シヅ 螢雪メデイカル 三

(三) 二六〇二九 一九八一

一〇〇年前に胃切除手術を成功させた テオドルC・A・ピ

ルロート 酒井シヅ 螢雪メデイカル 三(四) 三〇〇三

三一 一九八一

―法制面から環境衛生の改善に尽くした―エドウィン・チャド

ウィック 酒井シヅ 螢雪メデイカル 三(五) 二八〇三

一 一九八一

テオドル・コツヘル 酒井シヅ 螢雪メデイカル 三(六)

三二〇三五 一九八一

―脳外科の創始者として古医書コレクターの― ハーヴェイ・

W・クッキング 酒井シヅ 螢雪メデイカル 三(七) 二

八〇三一 一九八一

―脳波を臨床に活用する道を開いた― ハンス・ベルガー

酒井シヅ 螢雪メデイカル 三(八) 二四〇二七 一九八一

―手づくりの顕微鏡でミクロの扉を開いた―アントニ・ファン・

レーウエンフック 酒井シヅ 螢雪メデイカル 三(九)

二四〇二七 一九八一

イワン・ペトロヴィッチ・パヴロフ 酒井シヅ 螢雪メデ

ィカル 二(一〇) 三〇〇三三 一九八一

ローベルト・コッホ 酒井シヅ 螢雪メデイカル 二(一一)

三六〇三九 一九八一

トーマス・シデナム 酒井シヅ 螢雪メデイカル 二(一二)

六六〇六九 一九八一

歴史をつくる者 吉益東洞 東洋医学会編集部 経絡鍼療 一

三(四) 五〇〇五四 一九八一

打診法の発明者 レオポルド アウエンブルッガー 酒井シヅ

検査と技術 九(六) 五〇九 一九八一

ケリカー 酒井シヅ 検査と技術 九(一〇) 八二五 一九八

一

人と業績

緒方正規 (一八五三) 一九一九 山本俊一 公衆衛生 四  
 五 (一) 六六 〇六七 一九八一  
 長与専齋 (一八三一) 一九〇二 山本俊一 公衆衛生 四  
 五 (二) 一六八 一六九 一九八一  
 高木兼寛 (一八四九) 一九二〇 山本俊一 公衆衛生 四  
 五 (三) 二五六 二五七 一九八一  
 国崎定洞 (一八四四) 一九三七 山本俊一 公衆衛生 四  
 五 (六) 四八二 四八三 一九八一  
 リリアン・ウォルド (Wald, Lillian) 一八六七 一九四〇 小  
 栗史朗 公衆衛生 四五 (七) 五八八 五八九 一九八一  
 ベルナルデイン・ラマツツイーニ 小栗史朗 公衆衛生 四五  
 (八) 六四八 六四九 一九八一  
 エドワード・ジェンナー 小栗史朗 公衆衛生 四五 (九) 七  
 四四 七四五 一九八一  
 ジョーン・サイモン 小栗史朗 公衆衛生 四五 (一〇) 八二  
 八 八二九 一九八一  
 ルイ・パストゥール 小栗史朗 公衆衛生 四五 (一一) 九〇  
 八 九〇九 一九八一  
 ルドルフ・ウィルヒョウ 小栗史朗 公衆衛生 四五 (一二)  
 九七六 九七七  
 医・薬学の履歴書 薬法の研究に著功のあつたヴァレリウス・コ  
 ルドス 鶴野 誠 新医療 八 (二) 五四 五五 一九八一  
 医師としての森鷗外 伊達一男 續文堂 一九八一  
 荻生徂來の兄医師荻生理庵の謎 堀部寿雄 千葉医師会報 三

三 (一) 四六 四九  
 パラケルススへの旅  
 ザルツブルク 大橋博司 内科 四七 (三) 三七二 一九八  
 一  
 アインジーデルン 大橋博司 内科 四七 (四) 六四九 一  
 九八一  
 フィラッハ 大橋博司 内科 四七 (五) 八六三 一九八一  
 ニュルンベルク 大橋博司 内科 四七 (六) 九五五 一九  
 八一  
 パーゼルとサンクト・ガレン 大橋博司 内科 四八 (一) 九  
 二 一九八一  
 南チロル 大橋博司 内科 四八 (二) 三〇三 一九八一  
 ドイツの新聞に載つた荻野久作博士の訃報 蒲原 宏 新潟県  
 医師会報 (三七〇) 一九八一  
 尾臺榕堂遺墨 蒲原 宏 新潟県医師会報 (三七三) 一九八  
 一  
 金井鳳台木彫像 蒲原 宏 新潟県医師会報 (三七八) 一九  
 八一  
 土屋雪齋の蘭文健康訓 蒲原 宏 新潟県医師会報 (三七九)  
 一九八一  
 手塚良仙光亨知見補遺 深瀬泰旦 日本医史学雑誌 二七 (一)  
 二一 三三四  
 森井忍仙とその医学 山形敏一 日本医史学雑誌 二七 (一)  
 三五 四六 一九八一

杉田(玄白)氏の家紋 緒方富雄 日本医史学雑誌 二七(一)

六四 一九八一

御雇教師 エルンスト・チーゲル 小関恒雄 日本医史学雑誌

二七(二)一一二~一二二 一九八一

鳥山松円の研究―「からすやま」か「うやま」か 松木明知

日本医史学雑誌 二七(二)一二三~一三〇 一九八一

大槻玄沢と厚生新編 山形敏一 日本医史学雑誌 二七(三)

二二三~二二四 一九八一

松岡恕庵の再評価 宗田 一 日本医史学雑誌 二七(三)二

二四~二二五 一九八一

伊東玄朴門人「徳岡左門」について 末中哲夫 日本医史学雑誌

二七(三)二二六~二二七 一九八一

徳島時代の関寛齋 福島義一 日本医史学雑誌 二七(三)二

三九 一九八一

鷗外の友人・賀古鶴所について 澤井 清 日本医史学雑誌

二七(三)二四八~二四九 一九八一

George B. Newtonと種痘事業 深瀬泰旦 日本医史学雑誌

二七(三)二七七~二七九 一九八一

ビルロートの胃切除術成功百年 古川 明 日本医史学雑誌

二七(三)二八〇~二八二 一九八〇

大槻玄沢と厚生新編 山形敏一 日本医史学雑誌 二七(四)

三〇四~三一五 一九八一

日本眼科学の先覚・井上達也(二八四八~一八九五)伝補遺

福島義一 日本医史学雑誌 二七(四)三二四~三三四 一九

八一

香妃随想―足立文太郎遺稿刊行に当って― 井上 靖 日本医事

新報(二九七四)六一~六四 一九八一

魯庵雜記(上) 冠 豊一 日本医事新報(二九七五)六四~

六六 一九八一

新宮涼庭の遺墨と小督碑 岸本幸夫 日本医事新報(三〇〇〇)

七四 一九八一

初の胃がん切除手術成功後一〇〇年を迎えてビルロート先生を憶

う 今永 一 日癌治療会誌 一六(三)四〇五~四〇八

一九八一

日本の医学の先達 伊古田純道 酒井シヅ 日経メディカル

(一二五)七四 一九八一

もう一つの蘭学の家・桂川家 杉本つとむ 日本歴史(三九二)

八二~一〇一 一九八一

医学の散歩道

シーボルトについて 堀江健也 練馬区医師会だより(一五

四)三一~三四、(一五五)四五~五〇 一九八一

北里柴三郎 堀江健也 練馬区医師会だより(一五六)六四

~六八、(一五七)三六~四〇、(一五八)五三~五八、一

九八一

福沢諭吉 堀江健也 練馬区医師会だより(一五九)二三~

二八 一九八一

北里の女房役 北島多一 堀江健也 練馬区医師会だより

(一六〇)四三~四七 一九八一

アンプロアズ・パレ四〇〇年前の大外科医 堀江健也 練

馬区医師会だより (一六一) 二九〇三三、(一六二) 五七〇、(一六五) 二四〇二七、一九八一

津和野と石見人・森林太郎 堀江健也 練馬区医師会だより

(一五六) 五〇〇五二 一九八一

Percival Bailey 半田 肇 脳神経外科 九(四) 五三八〇五

四一 一九八一

Wilder Penfield 北村勝俊 脳神経外科 九(五) 六四四〇六

四七 一九八一

Egas Moniz (Antonio Caetano de Abreu Freire Egas Moniz)

佐野圭司 脳神経外科 九(一一) 一三二八〇一三三一 一九八一

八一

名医列伝

宇留野春庵 「一揆を鎮めた硬骨漢」 大竹節男 ばんぶう

(七) 三六〇三七 一九八一

奥沢軒中 「産科発明」の名著も 大竹節男 ばんぶう

(八) 五〇〇五一 一九八一

柏原学而 大竹節男 ばんぶう (九) 六八〇六九 一九八一

鈴木抱山 大竹節男 ばんぶう (一〇) 二二〇二三 一九八一

高木兼寛 大竹節男 ばんぶう (一一) 三〇〇三一 一九八一

高野長英 大竹節男 ばんぶう (一二) 七〇〇七一 一九八一

一

一

フーフェランドの医戒について 大滝秀穂 福井県医師会だよ

り (二二六) 二七 一九八一

東北大学付属図書館野文庫蔵「喜多村直寛自筆本『黄帝内経素

問講義』をめぐって 石田秀実 文化 四五(一・二) 七〇〇七九 一九八一

医史学者としての土肥慶蔵先生 長門谷洋治 北陸医史 三

(一) 八〇二二 一九八一

ホルトルマンの外科治療について 寺畑喜朔 北陸医史 三

(一) 一九 一九八一

加賀藩藩医南保家文書「金瘡療治之事」及び「岩崎療治」[薬]

について 加藤豊明 北陸医史 三(一) 二二〇二五 一九八一

八一

山脇東洋の位牌(補遺) 松田健史・正橋剛二 北陸医史 三

(一) 二七〇二八 一九八一

「黄華堂医話」賀川流・初代道宅 黒田道宅 北陸医史 三

(一) 二九〇三〇 一九八一

平和を作る人たち シベリアに捕虜となった一軍医の経験から

安芸基雄 みすず (二五五) 一〇二三 一九八一

オスラー博士の生涯

定年の時期(一) 波紋を起こしたジョンズ・ホプキンス大学

での告別講演 日野原重明・仁木久恵 Medicina 一八

(一) 一七八〇一八三 一九八一

定年の時期 The Fixed Period (二) ジョンス・ホプキンス大

学のアメリカ医学への寄与 日野原重明・仁木久恵

- Medicina 一八(一)三〇二、三〇七 一九八一  
 オスラーの生涯の終焉 日野原重明 *Medicina* 一八(三)  
 五〇二、五〇六 一九八一  
 教師と学生一八九二年、ミネソタ大学にて 日野原重明・仁  
 木久恵 *Medicina* 一八(五)八六六、八七一 一九八一  
 教師と学生(二)一八九二年ミネソタ大学での講演の続き  
 日野原重明・仁木久恵 *Medicina* 一八(六)一〇七〇、  
 一〇七四 一九八一  
 病院は大学である 日野原重明・仁木久恵 *Medicina* 一八  
 (九)一六二八、一六三三 一九八一  
 学究生活(その二) 日野原重明・仁木久恵 *Medicina*  
 一八(一一)一九七〇、一九七八 一九八一  
 「五〇年後に」臨床医学の教育と学習精神 五〇歳の時のオス  
 ラー博士の講演 日野原重明・仁木久恵 *Medicina* 一八  
 (一二)二二五八、二二六六 一九八一  
 神農さんの「ブロンズレリーフ」 藤野恒三郎 *Mod Media* 二  
 七(一)一、四 一九八一  
 伝記(双)  
 薩摩医人群像補遺(その三〇) 森 重孝 鹿児島市医報 二  
 〇(五)二〇、二一、(一一)六六、六七 一九八一  
 古代ローマ時代の医師 酒井シヅ 手術 三五(七)七二、  
 一九八一  
 手の外科の歴史 巨人の肩の上で―手の外科の偉人たち― 磯部  
 饒訳 整形・災害外科 二四(二)二六三、二六九、(三)四  
 四五、四四八、(四)五六一、五六七、(五)六七一、六七五、  
 (六)七九七、八〇二、(七)九三五、九四〇、(八)一一八  
 三、一一八八、(一一)一五四二、一五四六、(一二)一六九  
 九、一七〇四、(一三)一八五七、一八六一、一九八一  
 中世の異色医家 酒巻英之助 通信医 三三(四)二五一、二  
 五二 一九八一  
 益満休之助と関寛斎 高山坦三 *日本医史学雑誌* 二七(三)  
 二〇六、二〇七 一九八一  
 新島襄をめぐる医師・看護婦たち 長門谷洋治 *日本医史学雜  
 誌* 二七(三)二四六、二四七 一九八一  
 同時代人としてのアンブロアズ・パレとフランソア・ラブレ  
 大村敏郎 *日本医史学雑誌* 二七(三)二七五、二七七 一九  
 八一  
 吳秀三・富士川游両先生がはじめてであった頃―わが国医史学の  
 濫觴をさぐる 岡田靖雄 *日本医史学雑誌* 二七(四)三一  
 六、三三三 一九八一  
 三雄(信長・秀吉・家康)の生いたちと末路 王丸 勇 *日本  
 医事新報* (二九六三)六三、六六  
 寄生虫病の研究史に輝く金大の先駆者たち 吉村裕之 *日本医  
 事新報* (二九六三)六七、六九 一九八一  
 近世医学第一線の越前人・若狭人 小林保正 *北陸医史* 三  
 (一)一五、一八 一九八一  
 伝染病及予防史  
 明治前日本検疫史 山下喜明 *医学選粹* (二六)一一、一七

- 一九八一  
甲斐における痘科及び牛痘種法の伝搬について 神田昌道 日  
本医史学雑誌 二七(三) 二三〇～二三一 一九八一  
江戸時代の麻疹流行 松田 武 日本医史学雑誌 二七(三)  
二二二～二三四 一九八一  
安政年度のコレラ流行の北限について 松木明知 日本医史学  
雑誌 二七(三) 二三五～二三六 一九八一  
感染防御研究の歴史的展望 川喜田愛郎 モダンメディア 二  
五(一一) 七二五～七五七 一九七九  
東洋医学史  
中国古代の医学 家本誠一 医学選粹(二七) 一一～一五 一  
九八一  
アーユルヴェーダとは何か―その一つのこたえ― 丸山 博 科  
学医学資料研究(九一) 一〇～一五 一九八一  
漢方と漢方薬 中国医学の変遷 難波恒雄 看学生 二九(二)  
八一～八五 一九八一  
大塚敬節先生のご逝去に対する海外よりの弔辞―葉橘泉・粟元植  
編集部 漢方の臨床 二八(二) 四一～四四 一九八一  
中国伝統医学における四時の認識と問題(一) 丸山敏秋 漢  
方の臨床 二八(五) 三五～三八 一九八一  
吉益南涯塾、塾則について 高野守啓 漢方の臨床 二八(五)  
四八～四九 一九八一  
香月牛山著『遊豊司命録』読み下し拙文 宮崎綾子 漢方の臨  
床 二八(三) 四二～四六、(四) 四七～五〇、(六) 三二～三  
六、(七) 四一～四三、(八) 二八～三二、(九) 三四～三七  
一九八一  
浅井国幹先生の墓前に捧ぐ 矢数道明 漢方の臨床 二八(八)  
四五～四六 一九八一  
木村博昭翁五十年忌祭典に列席して 矢数道明 漢方の臨床  
二八(九) 四一～四八 一九八一  
松本に於ける浅田宗伯とその後 平林達郎・平林光子 漢方の  
臨床 二八(一一) 三四～三七 一九八一  
大塚敬節先生一周忌法要追悼会 矢数道明 漢方の臨床 二八  
(一二) 四八～四九 一九八一  
大正末期から今日に至る漢方学の推移 岡江久義 京都医会誌  
二八(二) 九三～九五 一九八一  
中国古代における呪術と医術 丸山敏秋 宗教研究(二四九)  
二七～四七 一九八一  
アーユルヴェーダ入門の入門 西野美知子 東医学研究(二二)  
一七～一九 一九八一  
韓国医学史(一) 金 斗鐘 東医学研究(二二) 二〇～二三  
一九八一  
馬王堆出土の帛書『足臂十一脉灸経』読書札記(一) 趙 有  
臣 日本医史学雑誌 二七(二) 一～五、(二) 一五七～一六  
二 一九八一  
風の医学(中国古代の場合) 家本誠一 日本医史学雑誌 二  
七(三) 二八三～二八五 一九八一  
丁若鏞の医学思想について 梁 哲周 日本医史学雑誌 二七

(三) 二八五～二八六 一九八一

中国における太医署の職務の史的变化遷について—唐代を中心とし

て— 山本徳子 日本医史学雑誌 二七(三) 二八六～二八八

一九八一

内科史

パーキンソン病の内科的治療 高橋 昭 治療学 六(五) 七

一三～七二六 一九八一

わが国における Non-Hodgkin リンパ腫 (a) 歴史 石川七郎

内科 四八(一) 四 一九八一

呼吸の医学史 太田保世・辻千鶴子 日本胸部臨床 四〇(一)

一〇八～一一二 一九八一

博物館

再説・労研饅頭と木戸幸一日記にあらわれた労研 三浦豊彦

医学史研究(五五) 一五 一九八一

資料館の紋章の制定について 緒方富雄 科学医学資料研究

(八九) 一 一九八一

漢方文献の善本を所蔵する図書館とその利用法(一) 小曽戸

洋・久保道徳 薬学図書館 二六(一・二) 一九～二八 一九

八一

皮膚科史

皮膚科の歴史 青島敏行 日本医事新報(二九八一) 六一～六

二 一九八一

病院史

大阪陸軍臨時病院の手術の図 酒井シヅ 医学選粹(二五) 二

～三一 一九八一

一六世紀の病院 酒井シヅ 手術 三五(一〇) 一一〇— 一

九八一

戊辰戦争中の軍事病院(一) 奥羽出張病院について 佐久間温

己 日本医史学雑誌 二七(三) 二四〇～二四二 一九八一

本邦における皮下注射の濫觴と札幌梅毒院 宮下舜一 日本医

史学雑誌 二七(三) 二五〇～二五一 一九八一

病理学・細菌学

顕微鏡は何を見てきたか 細菌学の成立 中川徹 Olympus

Microscope Review (11) 110～111 一九八一

風俗史

川柳医療風俗史・補遺 山本成之助 日本医事新報(二九六一)

六八～七〇、(二九六七) 七一～七四、(二九七六) 六四～六

七、(二九七八) 七二～七四、(二九八一) 七二～七四、(二

九九三) 六八～七〇、(二九九七) 六九～七〇、(三〇〇四)

六八～七〇、(三〇〇九) 五六～五八 一九八一

明治期大阪の伝染病院 内と外 水原 完 日本医事新報(二

九八九) 六一～六四、(二九九〇) 六五～六八 一九八一

疫神欲待の伝承 大島建彦 日本民俗学(一三八) 一～一一

一九八一

「切紙」に観る投薬の心得 岩治勇一 福井県医師会だより

(二二五) 一五 一九八一

仏教医学

薬師如来瑞応伝にみる治病信仰 関根正雄 日本医史学雑誌

二七(三) 二〇八～二一〇 一九八一

黒谷仏性寺の「三七草絵馬」について 岸治勇一 北陸医史

三(一) 二六 一九八一

法医学史

明治初期英米法医学のわが国への紹介 小関恒雄 医学図書館

二七(四) 二〇四～二一一 一九八一

放射線医学史

放射線医学の歴史と現状―(その一) 病気を見る― 館野之男

科学医学資料研究(九〇) 一～三 一九八一

放射線医学の歴史と現状―(その二) 異物・骨・肉・空気の― 館野之男 科学医学資料研究(九二) 一～三 一九八一

野之男 科学医学資料研究(九二) 一～三 一九八一

麻醉

西洋医学の歴史 麻醉法の先駆者たち 矢部一郎 医歯薬進学

二(一二) 六四～六七 一九八一

日本における草創期の産科麻醉―産科麻醉の推進者としてのエル

ウィン・フォン・ベルツ 松木明知 日本医史学雑誌 二七

(一) 四七～五五 一九八一

世界最初のクロロフォルム麻醉死―ハンナ・グリーナー事件―

松木明知 日本医史学雑誌 二七(三) 二七九～二八〇 一九

八一

麻醉科学史研究最近の知見 Hannah Greener 事件 松木明知

麻醉 三〇(六) 六三七～六四一 一九八一

麻醉科学史研究最近の知見(二五) 松木明知 麻醉 三〇

(一〇) 一一四二～一一四六 一九八一

薬学史

『雍州府志』にみる一七世紀の成薬 宗田 一 医学史研究

(五五) 二八～三三 一九八一

富山壳薬の絵紙 前川久太郎 医学選粹(二八) 二～三 一九

八一

角海浜稱名寺毒消丸の引札 蒲原 宏 新潟県医師会報(三七

五) 一九八一

石徹白木法「ゆうふく薬」について 岩治勇一 福井県医師会

だより(二二四) 八 一九八一

貝類生薬の本草学的研究(第四報) 魁蛤・蛤蜊について 浜田

善利・村上誠愨 薬史学雑誌 一五(二) 四九～六一 一九八

一

蘭学

医・薬学の履歴書 種痘法以前に痘病への期待をかけられた曼公

鶴野 誠 新医療 八(一一) 八六～八七 一九八一

天保期における藤堂藩と本草学 茅原 弘 日本医史学雑誌

二七(三) 二一六～二二七 一九八一

中国伝統医学における薬物及び方剤の効能分類の変遷 梁 哲

宗 日本医史学雑誌 二七(三) 二八八～二八九 一九八一

洋学勃興の「思想的前提」について 沼田次郎 日本歴史(四

〇三) 一～一四 一九八一

蘭学事始の跡を辿って 竹下外来男 北陸医史 三(一) 二〇

～二二 一九八一

中国の宋、金、元、明、清代および中華民国年代における爆竹、

爆伐、烟火 岡田 登 薬史学雑誌 一五(二)六二〜七〇  
一九八一

佐渡に自生するホソバオケラ *Arachyodes lancea* について

安江政一 薬史学雑誌 一六(一)一〜八 一九八一

明治時代の薬物展覧会について 小川鷹二 薬史学雑誌 一六

(二)九〜二〇 一九八一

「生薬学」と訳した大井玄洞について 浅野正義 薬史学雑誌

一六(一)二一〜二四 一九八一

中国におけるジャコウシカ的人工飼育 伊藤和洋 薬史学雑誌

一六(一)二五〜三四 一九八一

日本の名薬 売薬の文化誌― 宗田 一 八坂書房刊 一九八

―

その他

『砂糖の歴史』 米浪信男 旭川大学紀要(一一)一〇七〜一

三〇、(一二)六七〜八三 一九八一

戦時下における医学的虐待とその背景 永田洋子 医学史研究

(五五)八〜一五 一九八一

一九世紀英国における環境制御 野島直子 医学史研究(五五)

一六〜一八 一九八一

日本医学史研究余話 服部敏良 科学書院 一九八一

はかり 酒井シヅ クリニシアン 二八(二)四〜六 一九八

―

EDの歴史 小山 真・相馬哲朗・吉川和子 外科治療 四四

(四)三八三〜三九五 一九八一

日本における臨床検査の始まり 酒井シヅ けんさ 一一(二)

二五〜二九 一九八一

人類医学年表 三木 栄 思文閣出版 一九八一

医学・歯学・薬学のシンボル・マーク―アスクレピオスの杖とヒ

ギエイアの杯― 古川 明 歯界展望 五八(五)九七七〜

九八六 一九八一

古代エジプト医学 酒井シヅ 手術 三五(六)六〇八 一九

八一

ロンセの長老 酒井シヅ 手術 三五(一一)二二七 一九

八一

はじめてのアメリカ―医学史をめぐる― 丸井英二 東京医

学 八七(五・六)一八六〜一八八 一九八一

医の本質 三木 栄 日本医事新報(二九九六)五九 一九八

―

インスタント哲学 守屋 正 日本医事新報(三〇〇〇)六三

〜六四 一九八一